

弓道いばらき

令和2年6月 第42号

発行者 笠間市箱田大郷戸1-31

茨城県弓道連盟

理事長 高松 清

<http://ibakyuren.com>

令和二年に向けて



茨城県弓道連盟 会長 久保田 清

昨年十二月、中国湖北省武漢から発生した新型コロナウイルスが瞬く間に全世界に広がり、多くの人が亡くなり、日本でも全国各地に感染者が広がり、緊急事態宣言まで出て、世界中で多くの人が集まるスポーツ、各種イベントが中止、延期と混乱している状況にあります。全日本弓道連盟におきましても前年度二月から大会、審査、講習会が九月まで中止になっております。

茨城県弓道連盟では、昨年四十五年振りとなる、いきいき茨城ゆめ国体が開催され、県連盟一丸となり無事終了し、一安心しているところでしたが、新型コロナウイルスの影響で、県連盟の最重要行事であります、理事会、代議員会が開催出来ない状況に陥り、理事会では議案書を各理事が在宅でリモート論議していただき、議書書類を代議員に送付し、書

面で賛成決済をいただきました。

全日本弓道連盟でも改革が進み若返りを進めて実行しています。茨城県弓道連盟も国体終了を機に若返り人事をし、新役員体制で船出したしました。長い間県弓道連盟を支えていただいた旧役員の先生方には心より感謝申し上げます。

昨年度を振り返ると、大会では高校の部の関東大会以上の記録では、関東高等学校弓道大会女子団体三位（鹿島高校）、関東高等学校弓道個人選手権選抜大会男子一位（千葉大地 石岡一高）、女子七位（坂佐井朋佳 水戸二高）、国体少年男子遠的六位。中学の部の関東中学生弓道大会男子団体三位（東海南中）、全中学生弓道大会男子団体一位（東海南中）、女子三位（水戸二中）、一般の部の関東教職員弓道大会男子団体一位（谷田部、坂井、青柳）、

二位（中嶋、栗田、福永）、全日本教職員弓道大会男子個人九位（後藤）、関東地域弓道選抜選手権大会称号者四位（山口）、全日本弓道遠的選手権大会女子の部五位（長谷川）、全自衛隊弓道大会有段の部一位（福田）、称号者三位（大貫）、以上の通

り活躍され全日本優秀地連ランキングが十四位とアップされ、日頃の修練が少し発揮された感じがしました。審査では、難関であります教士が三名（黒澤、石塚、堀）久しぶりに突破し、六段も三名（柴村、根本、伊東）昇段しました。

錬士も十名合格されました。講習会では、県内講習会は行われましたが、外部招聘は関東、中央等の大きな講習会はコロナウイルスや矢羽問題の影響で中止になり、現在も全国において中止されている状況です。茨城県弓道連盟では、今年度新役員での対応ですが、早くコロナウイルスや矢羽問題が終息されることを願っています、会員皆様の協力を頂きながら進めて行きます。

続いて、茨城国体の報告を述べます。

「天皇御即位記念」

第74回国民体育大会を終えて

いきいき茨城ゆめ国体2019弓道競技会が無事終了したことを報告致します。

今年は全国各地が台風、豪雨、土砂崩れなどの被害に見舞われ、全国弓友の方々も被災されたとの声もきかれるなかでの開催でした。国体開催期間前週と翌週で、台風が関東を襲うなかでの奇跡的な開催でした。

開催には、全日本弓道連盟・増田規一郎会長はじめ役員の皆様、関東地域弓道連盟連合会の先生方が、役員、審判委員としてご参加頂きましたことを感謝申し上げます。また、本国体開催五年前から、水戸市長・高橋靖様をはじめ水戸市国体実行委員会、競技会場となる茨城県武道館・堀原運動公園職員の皆様、水戸市近郊の高校生ボランティア、本連盟競技役員が幾度となく協議、リハーサルを行いました。水戸市実行委員会と競技役員においては、先催の福井県、愛媛県、岩手県への視察を行い準備してまいりました。茨城県弓道連盟も三年前から一般大会を変更、休会という対応し、本番を想定して練習

を重ねてまいりました。本番前で練習では少し不安もありましたが、いざ始まると完璧に近い運営を行い、「茨城の底力を見せよう」の合言葉のもと、強い団結心を見せることができた大会でした。

施設面においては、堀原運動公園の安全を第一に、茨城県が誇る既設の茨城県武道館近似的射場と、フエンス、照明観客席などを整備

ていただいた立派な遠的射場が準備できました。特設射場も遠的射場の横、近的射場安土裏と、会場全体をコンパクトに納め、動線よく運営することができました。多目的広場には、茨城県を代表する物産品の販売店、お土産店、国体グッズ、弓具店が並んでおり大賑わいでした。なかでも長蛇の列が

『弓道体験コーナー』で、市民、小学生たちが中り外れで大盛況でした。競技は近年になく、ハイレベルな熱戦が繰り広げられ、近成年男子の岡山県が決勝トーナメント第一・第二試合で12射皆中で

決勝進出、片や岩手県は第一試合10中、第二試合も10中その後、4回の競射を戦い抜き決勝へと駒を進

めました。決勝でも岡山県が皆中するか注目されましたが、結果は12中対10中で岩手県が第1位と、失中したら負けの的中勝負でした。成年女子遠的において、大分県の折田唯選手が予選2回目で4射皆中40点満点、1回目と合わせて66点を一人ですという大記録を出しました。

また成年男子・秋田県の成田裕也選手は、近的競技において予選・決勝・射詰競射まで全的中でした。これだけでも立派でしたが、特筆すべきは、近的において射位はもとより、射詰競射の本座までも膝を生かして毅然として臨んでいたことに、東北秋田の気概と弓道本来のあり方を見せてくれた

気がしました。競技終了後の表彰式では、戦い終わり顔もほころび、お互いの健闘を称え合い、弓道競技会が終了しました。国体開催にあたり、関係各位の甚大な努力に助けられた大会でした。心より感謝申し上げ報告いたします。

令和二年度に向けて



理事長 高松 清

この度、役員改選にあたり、図らずも理事長に推挙され就任いたしました。前理事長の大峰先生のお人柄については、改めてここで述べるまでもなく温厚なその器の大きさは、会員の皆様方からの信頼も厚いものでした。ここで県連の運営を支えていただいたことに心より敬意を表し感謝申し上げます。

わたくし自身は浅学非才で経験・知識共に不足しており重圧は計り知れませんが、精いっぱい努める所存でございます。何ができるかは心細い限りですが、県連の円滑な運営のため一生懸命事務を執行してまいりたいと思います。

昨年十月二日から六日間にわたって開催された、第七十四回国

民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」における弓道競技においては、本県選手団が一九となつて戦ったことは記憶に新しいところす。この運営にあたつて

は、水戸市国体実行委員会、茨弓連国体事務局そして競技会場である茨城県武道館、競技役員の方々が幾度となく協議・リハーサルを重ね準備をしていただいたことが成功に結びつけられたのだと信じております。また、国体事務局長の森先生をはじめ、国体実行委員の方々には三年も前から打ち合わせ、視察等の準備をいただきまし

た。さらには、茨城県弓道連盟の一般大会も、リハーサル大会として練習を重ね、水戸市近郊の高校生ボランティアにもご協力をいた

だいたことで、パーフェクトな運営に結びつけられたものと、改めて関係各位の皆さまに心より感謝申し上げます。

さて、令和元年度の代議員会は、新型コロナウイルス感染防止のため、極めて異例ではありますが、書面での決議とさせていただきます。

第一号議案「事業報告」では競技部より県内・外の大会における結果等、指導部からは講習会の開催状況等研修事業について報告がありました。審査部からは一般審査・中高生審査・連合審査の実施状況及び中央審査・連合審査における合格者の掲載等、強化部からは一次・二次・三次それぞれの強化事業について報告がありました。

続いて、第二号議案「決算報告」では、支部別会員登録数1,219名であったことをはじめ一般会計・各専門部会計・国体基金会計について収支報告がありました。この収支については、令和二



年四月十九日に監査を実施し、監事より適正に処理されている旨の結果報告をいただいております。

第三号議案「令和二年度事業計画（案）」

では茨城県弓道連盟行事予定を例年どおり計画しましたが、新型コロナウイルスの影響で中止が相次いでおります。

また、第四号議案「令和二年度一般会計予算案」では、大会や審査会の中止等が懸念される中で予算配分となりました。

第五号議案「役員改選」で、新任の副会長四名、理事長、副理事長、監事、および審査部長、競技部長、指導部長の各部長、地区理事六名、そして総務企画委員が新たに選任されました。再任された久保田会長はじめ役員及び理事の方々とともに邁進してまいるとともに、前任の役員・理事の先生方には本連盟の運営に多大なるご尽力とそのご功績に心より感謝申し上げます。

次に、関東地域などの広域な

規模の大会に使用することを目的とした「大規模大会等基金」（500万円）を創設したことをご報告させていただきます。

「新しい生活スタイル」がはじまったこの令和二年度において、大会や講習会、審査会に積極的に参加をいただきたいところであります。

ありますが、新型コロナウイルスの動向を見ながら会員の皆さまの健康を第一に考慮して行事を進めてまいり所存でございます。そのような中ですが、弓道人口の拡大は近年の課題でもあり、弓道教室をはじめ地域活動をより進められ、弓道を継続できる環境づくり等、会員の皆様には様々な工夫をお願いいたします。

新型コロナウイルス危機での自粛要請を受けて異例のスタートとなりましたが皆様方のお力添えをお願いするとともに皆さま方の益々のご発展、ご活躍をご祈念いたしまして、あいさついたします。

総務企画委員会より



総務企画委員長 明間 勲

今年度の理事会、代議員会は、今まで経験のしたことのないこと

でしたが、新型コロナウイルス感染症予防策として 書面決議による議決になりました。令和二年度茨城県弓道連盟理事会議案書の第一号議案 令和元年度事業報告について 第二号議案 令和元年度決算報告について 第三号議案 令和二年度事業計画「案」について 第四号議案 令和二年度予算（案）について、すべて賛成の議決となりました。

また、第五号議案 役員の改選については、茨城県弓道連盟役員等候補者選考委員会規約により、書面による役員等候補者選考委員会で会長及び監事二名（会長・久保田清、監事・角田孝、稲葉健次郎）が選出されました。

今年度の役員及び理事の改選について、昨年度までの大きな事業

が終了したことを受け大幅な役員交代となりました。

総務企画委員会については、一人増員されました。茨城県弓道連盟総務企画委員会規約 第二条 委員会は、弓道指導指針の策定、審査会の合理的運行の検討、国体選手強化計画の策定、連盟活性化の施策など、会長が会務に要する重要案件の検討を付託し、長・中期的にまとめて会長に報告するものとする、に鑑み、令和二年度は新型コロナウイルスの影響を考慮しながら各委員で議論していきたいと考えています。

さて、新型コロナウイルスでの自粛で、二月半ばかり、各道場は例年の行事も自粛ムードになってきました。私の利用する弓道場も使用禁止となり健康維持のための毎日の楽しみが奪われてしまい、早朝の散歩で足腰を鍛えようと散

歩すれば食欲が増し、体調もいいと思ったところが、あつという間に体重が重くなり体調管理をしていたところ、六月初めから待ちに待った新型コロナウイルスの自粛解除となってきましたが、感染防止チェックリストを準備し、茨城県内に在住者のみの使用となりました。まだ自粛解除は完全ではなく、同じ体育協会の仲間なのに県外の皆さんが道場を使用できず、また、早く安全にマスク無しで利用したいものです。安全に利用いただくために、「3つの密を避ける」、「正しい手洗い」、「正しいマスクの着用」を守り、かつ取手弓道場の使用者は20名以内と決められたため、取手の弓道人口の60名を前半、後半と2班に分け密にならないよう使用しています。

高校生も新型コロナウイルスの影響で、高校生活最後の舞台の楽しみが次々と奪われています。そういった中、茨城県弓道連盟審査部ではビデオ審査の実施を計画し、要項についてまとめています。詳しくは、審査部だよりをご参照ください。

茨城県弓道連盟

新型コロナウイルス
感染症拡大防止対
策ガイドライン

主催者が遵守すべき事項、参加者が遵守すべき事項のガイドラインです。

主催者用

1. 全般的な事項
(競技大会・講習会・審査会)

- ・このチェックリストを適切な場所に掲示する
- ・各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する
- ・感染が発生した場合に備え、個人情報取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面について、大会後1ヶ月間保存しておく
- ・事業後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく

〔例〕水戸市 相談窓口…

029-306-6233
午前9時から午後5時まで

(平日のみ)

2. 参加者について

- ・当面の間、参加者を次のように限定する
- ・本部役員、運営役員
- ・参加申込をした者（選手及び監督等）
- ・役員の人数は最小限とする
- ・三つの密を避けるため、参加者以外の一般観戦は当面の間禁止とする（参加申込案内で連絡する）

3. 参加申込について

- ・感染拡大防止のため、参加者は文書で次の措置を求める
- ・以下の事項に該当する場合は、参加を見合わせる（事業当日に書面で確認を行う）
- ・体調がよくない場合（例 発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・マスクを持参する（行射中以

外はマスクを着用すること）
こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する

他の参加者、役員等との距離（できるだけ2m以上）を確保する

- ・参加中に大きな声で会話等をしない（矢声禁止、応援禁止）
- ・三つの密を避けるため、参加者以外の一般者等の観戦は当面の間遠慮願う
- ・感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- ・事業終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する

4. 会場について

〔控室、更衣室、休憩・待機スペース〕

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる
- ・複数の参加者が触れると考え

られる場所（ドアノブ、テーブル、イス等）については、こまめに消毒する

- ・1時間おきに換気用の窓をあける等、換気に配慮する
- ・アルコール等の手指消毒剤を設置する

〔洗面所〕

- ・複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- ・「手洗いは30秒以上」の掲示をする

- ・手洗い後に手を拭くタオルは各自用意して、共有しない
- ・手指を乾燥させる設備がある場合は使用しないようにする

〔観覧席〕

- ・参加者同士が密な状態とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとる

- ・「矢声・応援禁止」および「マスク着用」の掲示をする

〔第2控・第3控、集合場所〕

- ・参加者どうしの間隔が密とならないよう、ゆとりをもつて配置する
- ・飛沫防止のため、私語を禁止

する

- ・射場内、行射中のマスク着用は行射者の判断に任せる
- ・行射者以外の参加者、監督は常にマスクを着用する
- ・複数の参加者が触れると考えられる場所（イス等）については、こまめに消毒する（消毒剤を設置する）

〔記録席・審判席〕

- ・役員どうしの間隔が密にならないよう、ゆとりをもつて設置する
- ・複数の大会役員が触れると考えられる場所・機材（机、イス、トランシーバー、マイク、双眼鏡、看的表示板、的中数表示板、○×表示器等）については、交代時に消毒する（消毒剤を設置する）
- ・筆記用具は各自持参し、共有しての使用は行わない
- ・矢取りの参加者どうしが密にならないよう、看的小屋の外で待機させる

〔顧問控室・本部〕

- ・密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめイスの数を減らすなどの対応をとる
- ・換気用の窓をあける等、換気に配慮する
- ・入退室の前後に手指の消毒を

する(消毒剤を設置する)

・複数の役員が触れると考えられる場所(机、イス等)については、こまめに消毒すること

〔巻き藁室・遠の場〕

・行射前は、控室↓巻き藁練習↓集合場所↓第3控↓など参加者導線を一方方向になるように工夫する

・巻き藁室(役員控え室)も密にならないように配慮をする

・換気用の窓をあける等、換気に配慮する

・開始前以外の巻き藁練習は遠慮してもらう

〔更衣室、休憩・待機スペース〕

・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること(障がい者の介助を行う場合を除く)

・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること

・室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等)については、こまめに消毒すること

・換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮

すること

・スタッフが使用する際は、入室の前後に手洗いをすること

5. 開場・入場について

・参加者どうしが社会的距離を開けて並ぶように呼び掛け、整然と入場させる

・マスクを着用させる

・参加者がマスクを準備していないかを確認する。持っていない場合は各自購入してもらう。(主催者側で販売はしない)

・入口には、手指消毒剤を設置する

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

・当日の出席確認の受付は、代表者が参加者の体調チェックシートを纏めて提出すること(密を避ける)

6. 受付について

・受付を行う役員は、マスク、フェイスガード、ゴム手袋を着用する

・距離を置いて並ぶように呼びかける

・受付場所での現金の授受を行わない

・参加者に以下の事項を記載した書面の提出を求める(書面は支部毎に回収し、受付に提出する)

・①氏名、住所、連絡先(電話番号)※個人情報の取扱いに十分注意する。主催者が1か月間保存

・②参加当日の体調管理チェック

・③参加前14日以内における以下の事項の有無

・発熱の症状

・息苦しさ(呼吸困難)

・だるさ(倦怠 けんたい感)

・嗅覚や味覚の異常

・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

・発熱の症状がある場合、上記③の内容に該当する場合および書面に不備がある場合

は大会への参加は遠慮してもらう

7. 役員打合せについて

・役員打合せは密を避けるため、事前にメール等を利用して事前に行うことを勧める

・当日の打合せは射場等、広い場所で行う

・マスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する

8. 開会式・閉会式について

・矢道を利用するか、参加は各支部代表1名にするなどする。運営によっては開催しない

・式参加者どうしの間隔は、両手を広げた間隔で整列する

・閉会式への参加は入賞した選手のみとする

9. 当日の準備・片付けについて

・係、役員どうしが密にならないように呼びかける

・使用した場所・機材(机、イス、パソコン、トランシーバー、マイク、双眼鏡、確認旗、看的表示板、的中数表示板、○×表示器等)については消毒を行う

・準備・片付けの後は石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

水で手を洗い、手指消毒する

・参加者が飲食で出したゴミは各自で持ち帰らせる

・ゴミを回収する人は、マスク、ゴム手袋を着用し、鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して処分する

・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること

10. 飲食物の提供時

・参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること

・スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること(ただし、ドレーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならぬこと)

・果物等の食品については、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと

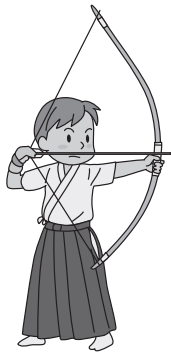
・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

感染防止チェックリスト

(参加者用)

【参加者が遵守すべき事項】

- ・以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる事
- こと（利用当日に書面で確認を行う）
- ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・マスクを持参し着用すること（行射中以外はマスクを着用すること、行射中は判断に任せる）
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- ・他の参加者、主催者、役員等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること
- ・大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと（矢声禁止）
- ・感染防止のために主催者及び施設管理者が決めたその他の措置の遵守、指示に従うこと
- ・大会終了後2週間以内に新型



「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

【参考】

公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

※この新型コロナウイルス感染症拡大対策ガイドラインは、今後の感染状況や政府関係機関からの指導を踏まえて逐次見直すことがあります。茨城県弓道連盟のホームページでお知らせします。

- ・コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
- ・行射前後の見学においても、三つの密を避けること
- ・タオルは各自持参し共用はしないこと
- ・飲食については、周囲の人と社会的距離を取って対面を避け、会話は控えめにする
- ・飲食後のゴミは各自が持ち帰ること

専門部だより

指導部



部長 米山 良美

会員の皆様には新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出によって、道場の使用制限などがあり、日々の稽古にもご苦労されていることと思います。

さて、この度の役員改選に伴い、去る五月十六日の理事会にて指導部長という大役を仰せつかりました。微力ながら精一杯尽くす所存です。副部長には同じ県西地区で北総支部の鈴木隆之先生に引き受けて頂きました。宜しくお願い致します。

今年度の指導部講習会については、四月、五月の講習会を会員の皆様方の健康を第一と考え、残念ながら中止させていただきました。六月十三日の教士講習会は、少人数ということもあり、日本スポーツ協会のスポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラインに基づき、受付時に体調等の確認事項を記載した書類を提出して

もらい、感染防止の三つの基本である、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒などの措置を講じて実施しました。

当日は、前指導部長の川瀬先生が事前準備を含め担当され、私は引き継ぎを兼ねて一部のみお手伝いさせていただきました。主任講師の久保田先生は、講話のなかで、正しい射を体で覚える事、今まで教わってきたことがなぜ重要なのか、よく考えて稽古する事、日常生活においても、人間として節度ある行動が必要であることを説いておられました。

この講習会は、緊急事態宣言が解除された後の最初の行事ということになりましたが、ここで私が感じたのは、最終的には各人のコロナウイルスに対する認識が重要であり、自分が感染者だと想定した行動ができるかどうかだと思います。日ごろ柴田先生が言われているように、人に対する思いやり、長幼の序の精神など、弓道で学んできたことを実践していけば、必ずこの新しいウイルスにも対応できるものと考えております。

今後予定の講習会も、状況を見極めながら講師の先生方のお力添えをいただき、実施していくこ

ととなると思います。講師の先生方よろしくお願いいたします。

指導部として、基本的には昨年度と同様に次の事項を重点として講習会を開催致します。

「弓道教本及び副読本に基づいた基本の指導」

指導者の心得（地区指導者講習会及び指導者育成講習会）四項目

- 一、日本弓道の指導者として、自ら至誠と礼節を体現し、真善美を目指すこと。
- 二、受講者に対する自己の影響力を認識し、自身の言動の倫理性について常に注意を払うこと。
- 三、指導にあたっては、自らが実践躬行すること。
- 四、指導にあたっては、弓道教本及び副読本に基づき全国的に統一された指導を行うこと。

指導項目（地区指導者講習会及び指導者育成講習会）五項目

- 一、射法、射技の基本
- ・五項目の指導
- ・正しい射法八節の指導
- ・基本体の必要性
- ・動作の注意点（八項目）の指導

三、射品、射格の向上について

- ・高段位者は常に射品・射格を高める努力を怠らないことの指導

四、指導者育成講習会について

- ・目的に沿った指導項目を加える（グループディスカッション等）

五、公認資格認定制度について

- ・公認資格認定制度における定着と更新方法の周知を行う

矢羽の取り扱いと矢羽の使用に関する準則について

- ・適正な矢羽の使用について周知徹底を行う

受講者の皆様方には、「今日の講習会は楽しかった、今度道場に行ったら、ここを工夫して引いてみよう、練習するのが楽しみたい、明日も道場に行こう。」と思えるような講習会であれば良いと思います。

新しい生活様式のなかで、日常生活においてもいろいろな制限があり、講習会の実施に関しても皆様にご不便やご面倒をおかけすることとなると思いますが、今年度の指導部の事業に関しまして、ご協力のほどお願い申し上げます。

最後に会員の皆様には、まずは

新型コロナウイルスの感染予防措置を継続されて、この異常な事態を乗り越えて健やかに従前の日常に復帰できる日を迎えられるように、心よりお祈り申し上げます。

審査部

部長 新井 重夫



今年度、審査部長を拝命いたしました取手支部の新井です。こ

れまで皆様に支えられ、四期八年にわたり審査部事務局として、審査会運営に携わらせていただき、心より感謝申し上げます。このたび大役を仰せつかり、責任の重大さに身の引き締まる思いです。前和泉部長は、皆様からの信頼も厚く、私のような若輩者では、まだまだ足元にも及びません。今後皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、より広い視野を持って、努力を惜しまず精進して、誠心誠意務めを果たす所存です。

今、私たちは、新型コロナウイルスによる百年に一度という世界的な災害の中におります。医療関係者の皆様をはじめ、私たちの日

常生活を支えてくださっているエッセンシャルワーカーの皆様に敬意と感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。緊急事態宣言の発出で弓道場が使えなくなり、改めて稽古ができることの幸せを感じております。このような困難の中にあるときこそ、弓道が教えてくれる倫理性、「射即人生」「射即生活」について考えさせられます。

さて、昨年度は、中学生審査に2,345名、一般審査に427名、連合審査に330名、中央審査に371名、合計3,473名の申し込みをいただきました。皆様からお預かりした審査料と登録料は、約1,570万円にのびりました。

私が審査会運営に初めて携わった平成二十四年度は、中学校で武道が必修となった時期でした。前年度の県内審査会の受審者は1,864名でしたが、平成二十四年度は2,584名と720名の急増を見ました。その当時は、事務局は一名であり、県外審査の申し込みと県内審査の事務処理に追われる毎日でした。

年々増加する受審者に対応するため、平成二十八年度からは、県外審査会の申し込みと県内審査会の事務処理を分離させ、事務局二名体制にいたしました。

今年度からは、さらに中高生審査会と一般審査会も分離して事務局三名体制とし、審査会運営の円滑化を図るとともに、より一層、受審しやすい環境づくりを考えております。

しかしながら、コロナ禍により、三月から九月まで審査会が全て中止となりました。中止となった審査会には、延べ118名の方から申し込みいただいておりますが、審査料を返金いたしました。審査料の返金にあたり、支部長の皆様には大変お手数をおかけしましたが、ご理解ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

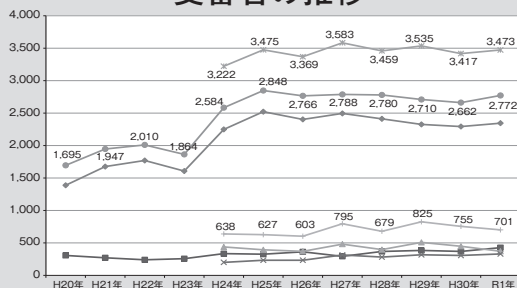
新型コロナウイルス感染拡大防止については、政府、地方自治体日本スポーツ協会、全日本弓道連盟などから、様々な要請・指示が出されています。十月以降の審査会につきましては、全日本弓道連盟にて策定されている審査実施に関するガイドラインに従い、再開の時期を検討いたします。

このような状況ですが、五月末に全日本弓道連盟から新たな審査会開催の連絡がありました。今年度限りの特別措置として、学校における部活動が再開された場合に、中高生対象のビデオ撮影による地方審査会（級位・初段・二段）

を実施することになりました。各学校の顧問の先生方におかれましては、生徒の皆さんの進路活動等に資するため、是非ともご理解ご協力をお願いいたします。まだまだ先行き不透明な状況であり、アフターコロナの審査会について、試行錯誤が続くことと思われます。受審者、審査委員、審査部員の皆様の安全確保を第一に考え、これまで以上、円滑な審査会運営に尽力する覚悟です。微力ではありますが、今後も茨城県弓道連盟の発展のため、皆様一人一人のご意見を耳を傾け、審査会運営に携わりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願

いいたします。

受審者の推移



＜参考＞

【ビデオ審査要領(中学生対象)】

①ビデオ撮影の実施責任者は、各学校部活動顧問または外部講師とする。

②ビデオ撮影機器は、次の動画が撮影できるように固定した位置に設置する。

・受審者の正面、肩のあたりが画面の中心となる。

・受審者の足元から会の時の末揖(弓の上側)、かつ残身時の両手が映る。

・背丈の違う受審者がいる場合であっても、カメラ調整を行わないで全身が映る。

③受審者は、ゼッケンをつけ、動画の射手と受審者名簿を一致させて撮影する。

・ゼッケンは、袴の中央から右側に両面テープで貼付ける。

④受審者は、立順に従い1人ごとに一手行射を行い、ビデオ撮影する。

⑤的を1つ設置し、同じ射位で順次一手行射し、行射終了後从前から退場する。

⑥1番の受審者

・本座で跪坐した後、揖をして射位へ進む。

・射位で跪坐し、脇正面に向きを変え、弓を立て、甲矢を番

え、間をおかず行射する。

・甲矢の行射後、射位で跪坐し、乙矢を番え、間をおかず行射する。

・乙矢の行射後、退場する。

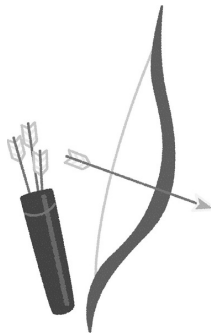
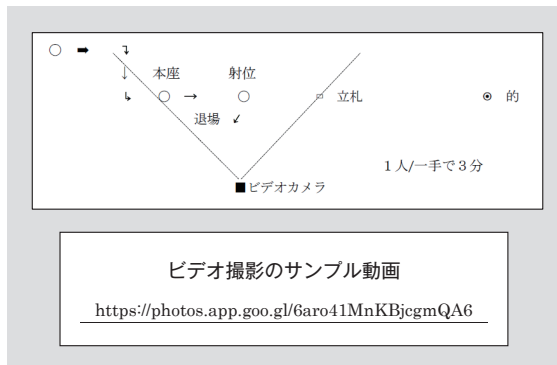
⑦2番以降の受審者

・直前の受審者の甲矢の弦音で本座に跪坐する。

・直前の受審者の乙矢の弦音で、揖をして射位へ進む。

・射位以降の所作は、1番の受審者と同じ。

⑦受審者の動線イメージ



競技部

部長 後藤 裕一

今年度の代議



員会において、前任の中嶋先生の後任として、

図らずもご推挙頂き光栄に存じます。微力ではございますが、会員の皆様の競技力向上のためにお役にたてればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

今年度の競技大会は、新型コロナウイルス感染症対策について行政機関からの発表を踏まえ、中止を含めた感染拡大防止への対応をとっております。また、各会員におかれましても、弓道場を含むスポーツ施設が閉鎖され、日々の弓道の修練も儘ならない状態になっていると推察されます。このような未曾有ともいえる危機をいかに乗り越えるか会員の皆様のお知恵を拝借しながら競技部の運営方法を考えたいと思っております。

6月8日より茨城版コロナNext【Stage1】となり、イベント等も実施可能になりました。しかし、大会開催にあたっては政府が示す「新たな生活様式」を踏まえ、「感染拡大防止ガイドライン」

を競技部として作成し、「新しい競技大会様式」で今後は一部の競技大会を開催できるように準備を進めております。詳細につきましては、大会申込案内と併せて「感染拡大防止ガイドライン」をお送りいたしますのでよろしくご理解ご協力をお願いします。

また、昨年度までは茨城国体の運営のために大会運営を競技部役員のみで行っていましたが、今年度からは以前行われていた各地区運営制に戻し各会員の競技運営能力の向上も図っていきたいと計画しております。当然、急な大会運営は難しい所もありますので、国体での運営経験のある役員を競技部運営員として残し、各地区から選出された競技運営係の皆様のサポートをしてまいりますのでご安心ください。この機会に全日本弓道連盟競技運営要領を一通り読めば、これもまた弓道技術の向上に繋がると考えます。更に、ここ数年の猛暑対策として競技大会中の参加者及び役員の熱中症予防対策にも取り組んでいきたいと考えております。以上会員の皆様が弓道修練の一環として参加される競技会が、安心安全の場であり自身の競技力の向上並びに競技運営力の向上に

強化部

部長 高木 勉



この度の役員改選で引き続き強化部長を務めさせて頂くことになりました。

令和二年度、微力ではありますが強化部員と共に努力して参りたいと思いますので、皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度、久保田会長をはじめ役員の方、強化部スタッフ、また茨城国体では競技役員の皆様や県体育協会、保健体育課競技力向上委員会の皆様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

2019年茨城国体成年男女・少年男女成績

成年男子

遠的139点

(菊地57点・尾吹32点・山口50)

12位予選敗退

近的18中

(菊地6中・尾吹5中・山口7中)

14位予選敗退

成年女子

遠的79点

(小林22点・佐久間15点・斎藤42点)

20位予選敗退

近的11中

(小林3中・佐久間3中・斎藤5中)

21位予選敗退

少年男子

遠的134点

(千葉54点・大和田52点・田川28点)

6位予選通過 6位入賞

近的14中

(千葉5中・大和田3中・田川6中)

17位予選敗退

少年女子

遠的74点

(鈴木30点・渡辺22点・紙田22点)

15位予選敗退

近的13中

(鈴木3中・渡辺4中・紙田6中)

11位予選敗退

昨年は45年ぶりとなる茨城国体が行われました。合宿や他県との合同練習を行い、体力・精神力・試合感を養うなど総合優勝に向け監督・選手・チームスタッフが一

丸となり強化練習を行ってきました。

結果は少年男子の遠的六位が最高順位で、改めて試合に勝つ難しさ、大変さを感じさせられた大会でした。

想定はしていたものの自分達と思うより地元開催のプレッシャーは大きく、皆様の応援を結果に出せなかったことを残念に思います。学業や仕事のあるなか強化練習から本国体まで参加頂いた監督・選手・スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。

今年6月27、28日予定の「第75回国民体育大会関東ブロック大会」の開催につきましては、COVID-19の影響で開催が難しくなっていました。

主管地連である神奈川県立武道館は8月末まで利用できない状況で、選考方法については主管地連の神奈川県弓道連盟様からの連絡待ちの状態です。

茨城県も堀原運動公園弓道場を含め地域の弓道施設が使用出来ない期間があり、国体選手選考会以降は強化練習が出来ませんでした。堀原運動公園弓道場の利用予定が決まり次第、関東ブロック・本国体に向けての強化練習を考えており

ます。強化選手にはご迷惑をおかけしますが、宜しくお願い致します。

最後になりますが、国体強化にも参加して頂いています筑波北条支部の長谷川絵鈴選手が、令和元年10月19、20日に中央道場で行われた第70回全日本弓道遠的選手権大会女子の部で五位入賞致しました。今後も選手権大会、国体での活躍をお祈り申し上げます。

施設部

部長 園部 俊雄



令和2年度もスタートして早くも3カ月目になりました。

昨年度は大きな行事が有りました。45年ぶりに茨城県で1974年(昭和49年)以来の国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」が天皇即位記念大会として盛大に行われ、大盛況で終了しました。地元

茨城県の結果は天皇杯、皇后杯さらに総合優勝というすばらしいものでした。弓道競技の部においては残念ながら良い結果は残せませんでした。出場された選手、参加された大会役員の皆様、大変暑いなか、本当にご苦労さまでした。

県連行事も通常の年度と違い、

少なめに計画されましたが、ほぼ予定通り実施出来ました。ただ令和2年になり中国を発端とする新型コロナウイルスの大流行が起き、

コロナ感染防止対策により3月の行事の一部が中止となりました。そして4月に入ってからコロナの影響により理事会、代議員会等もはじめての書類決議を行いました。茨城県弓道連盟の行事も現在のところ6月までは中止をしています。

茨城県では6月8日から自粛が全面解除され「3密」を避けた通常通りの行事が可能となりました。茨城県弓道連盟の行事がどのように実施されるかは、今後の状況を注目ください。

県武道館の施設は昨年度国体が行われたことで近的場、遠的場とも立派に模様替えが出来ました。施設の利用、共通道具の取り扱い等留意して有意義に利用したいものです。

令和2年度には大きな外部大会等はありません。県連講習会、審査会、競技大会等の行事が円滑に運営されるよう今年度も我々施設部員一同努力していきますのでよろしくお願い致します。

皆様に再度のお願い

茨弓連の倉庫にある備品の使用

後は必ず元の位置に収納してください。

また各専門部長の了承の上使用をお願いします。

自分の弓具等に支部名、氏名を記入して忘れ物をしないようお願い致します。

会議報告

県外

関東地連会長会議

(明間 勲 H 31/4/4)

全弓連会長会議

(久保田 清 H 31/4/24)

全弓連評議員会

(久保田 清 R 1/5/30)

全弓連評議員会

(久保田 清 R 1/6/20)

関東地連会長会議

(久保田 清 R 1/7/27)

関東地連会長会議

(久保田 清 R 1/9/7)

全国地連会長会議

(久保田 清 R 2/2/5)

県内

理事会

(水戸青少年会館

R 2/5/16)

代議員会

(水戸青少年会館

研修事業報告

R2/5/30

県外

〔関東北地区〕

指導者講習会 中止

〔関東北地区〕

指導者育成講習会 中止

中央研修会 中止

県内

1、講師・審査委員研修会

(H31/4/14 水戸 79)

2、第1回 三四段講習会

(R1/5/6 水戸 66)

3、第1回 五段講習会

(R1/5/19 水戸 48)

4、第1回 教士講習会

(R1/6/1 水戸 23)

5、支部指導者伝達講習会

(R1/7/21 水戸 45)

6、第1回 錬士講習会

(R1/8/3 水戸 41)

7、第2回 五段講習会

(R1/8/4 水戸 29)

8、第2回 三四段講習会

(R1/8/11 水戸 45)

9、第2回 教士講習会

(R1/8/31 土浦 19)

10、高校審判実技講習会

(R1/11/9 水戸 51)

11、第2回 錬士講習会

(R1/11/24 水戸 46)

12、外部講師招聘講習会

(錬六以上)

(R2/3/28 水戸 中止)

13、〃〃

(R2/3/29 水戸 中止)

述べ参加者数 492名

県外大会 一般

第66回全日本勤労者弓道選手権大会

(水戸市 R1/6/8/9)

・日立製作所茨城

(久保田 亮、森實 裕人、

竹之内 正宏)

・原子力機構

(小泉 紀子、寺田 秀行、

榎田 浩平)

第57回関東教職員弓道大会

(東京武道館 R1/7/7)

・男子団体の部 優勝

谷田部大地、坂井 昌平、

青柳 優

・男子団体の部 準優勝

中嶋 鉄郎、栗田 克紀、

福永 弘

第50回記念全日本教職員弓道選手権大会

(宮城県 R1/7/26)

・男子個人の部 第9位

後藤 裕一

第70回全日本男子弓道選手権大会

(天皇杯)

(三重県 R1/9/20/22)

・尾吹 将大、山口 純

第52回全日本女子弓道選手権大会

(皇后杯)

(三重県 R1/9/22/24)

・柴山 純子

第60回関東地域弓道選抜選手権大会

(宇都宮 R1/9/8)

・称号者の部 4位

山口 純

第74回国民体育大会弓道競技会

(茨城県 R1/10/4/7)

・成年男子

(菊地 凜、尾吹 将大、

山口 純)

・成年女子

(小林由紀恵、佐久間香名、

斎藤 詩乃)

・少年男子

(千葉 大地、大和田寛喜、

田川 晟梧)

・少年女子

(鈴木 来実、渡邊 真由、

紙田梨華子)

第70回全日本弓道遠的選手権大会

(東京都 R1/10/19/20)

・女子の部 5位

長谷川絵鈴

第32回ねりんピック

(田辺市 R1/11/9/12)

・寺本 貞光、武田美代子、

石田 寛、木村 薫、

大金 勉

・島田 嘉隆、伊藤 芳郎、

小又美恵子

第47回全自衛隊弓道大会

(東京 R1/12/1)

・隊友(有段)の部 優勝

福田 英男

・隊友(称号)の部 3位

大貫富士男

県外大会 教職員

第57回関東教職員弓道大会

(東京都 R1/7/7)

・男子団体の部 優勝

谷田部大地、坂井 昌平、

青柳 優

・男子団体の部 準優勝

中嶋 鉄郎、栗田 克紀、

福永 弘

第50回記念全日本教職員弓道選手権大会

(宮城県 R1/7/26/27)

・男子個人の部 第9位

後藤 裕一

県外大会 高体連

第63回関東高等学校弓道大会

(茨城県 R1/6/7/9)

・男子団体の部

・予選通過 佐竹、土浦第二

・予選敗退 水戸工業、

石岡第一、下館第二、守谷

・男子個人の部

・第4位 千葉 大地(石二)

・女子団体の部

・予選通過 清真学園、鹿島

・予選敗退 水戸第二、緑岡、

佐和、鉾田第一

・第3位 鹿島

・女子個人の部 特になし

第64回全国高等学校弓道大会

(宮城県 R1/8/7/10)

・男子団体の部

・予選通過 清真学園

・女子団体の部

・予選通過 土浦第三

・男子個人の部

・予選敗退 青柳賢史朗(常総)

・決勝進出 飯島 琉(牛栄)

・女子個人の部

・予選敗退 日向寺美羽(清真)

保坂 好美(藤代)

第38回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会

(東京都 R1/9/7/8)

・男子の部

・第1位 千葉 大地(石二)

・女子の部

・第7位 坂佐井朋佳(水二)

第74回国民体育大会弓道競技

(茨城県 R1/10/4~6)

- ・少年男子の部
- ・近的 予選敗退
- ・遠的 第6位
- ・少年女子の部
- ・近的 予選敗退
- ・遠的 予選敗退

第38回全国高等学校弓道選抜大会

(群馬県 R1/12/23~25)

- ・男子団体の部
- ・予選敗退 取手第一
- ・女子団体の部
- ・予選通過 水戸第二
- ・男子個人の部
- ・予選敗退 久須美光弥(水城)
- ・予選敗退 橋本 良也(玉造工)
- ・女子個人の部
- ・予選敗退 近藤 朋佳(藤代)
- ・予選敗退 片岡 麻衣(海一)

第19回東日本高等学校弓道大会

(岩手県 R1/3/20~22)

コロナウイルス対策の為中止

県外大会 中体連

第30回関東中学生弓道大会

(中央 R1/8/8)

- ・団体の部
- 男子 東海南中 第3位
- ・個人の部
- 男子 谷畑 智哉(土浦一)

7位入賞

第16回全国中学生弓道大会

(中央 R1/8/16~18)

- ・団体の部
- 男子 東海南中学校 優勝
- 女子 水戸第二中学校 第3位
- ・個人の部
- 男子 佐橋 崇朗(清真)
- 出場
- 女子 川野邊 集(水戸二)
- 第6位

連盟後援行事

土浦桜祭り大会

(土浦 H31/3/31)

村松山弓道大会

(東海村 H31/4/7)

鹿島神宮弓道大会

(鹿島 H31/4/29)

神栖弓道大会

(神栖 R1/5/12)

あやめ祭り弓道大会

(潮来 R1/6/17)

県南弓道大会

(取手 R1/11/10)

県西弓道大会

(下館 R2/1/19)

観梅弓道大会

(中止)

茨城県弓道連盟主催(主管)県内大会結果

春季大会

H31/4/21

有段男子の部

優勝 平根 伸彦

準優勝 増尾 裕次

第3位 岡田 智光

有段女子の部

優勝 岩田 京子

準優勝 上馬 英子

第3位 吉村 静華

称号者の部

優勝 西野 文子

準優勝 和泉 武

第3位 尾吹 将大

射技優秀

優勝 第一射場

準優勝 増尾 裕次

県民総体兼選手権予選

R1/5/26

男三段以下

優勝 小坂 麻嘉

準優勝 菊地 凜

第3位 水越 優

男四段以上

優勝 小沼 隆史

準優勝 木元 雄太

第3位 江幡 航平

女三段以下

優勝 佐久間香名

準優勝 海老澤美幸

第3位 小松崎彩香北

女四段以上

優勝 吉村 静華

準優勝 斎藤 詩乃

第3位 五十嵐ももな

称号受有者男子

優勝 船越 忠

準優勝 菊地 俊和

第3位 小松 正幸

称号受有者女子

優勝 石井 幸子

準優勝 石塚美志土

第3位 飯田 悦子

選手権決勝大会

R1/6/2

有段者男子の部

最高得点賞 大森 陽平

優勝 和田 峻

準優勝 矢幡 拓弥

第3位 江幡 航平

有段者女子の部

最高得点賞 長谷川絵鈴

優勝 五十嵐ももな

準優勝 吉村 静華

第3位 小林由紀恵

称号者男子の部

最高得点賞 山口 純

優勝 山口 純

準優勝 小出 則行

第3位 尾吹将大

称号者女子の部

最高得点賞 石井 幸子

優勝 石井 幸子

準優勝 黒澤 智子

第3位 石塚 美志

関東選手権有段派遣

和田 峻

矢幡 拓弥

岩下 智明

吉村 静華

五十嵐ももな

江幡 航平(補)

小林由紀恵(補)

関東選手権称号派遣

山口 純

小出 則行

尾吹 将大

黒澤 智子

船越 忠

小沼 勝則(補)

石塚 美志(補)

全日本関東予選男子派遣

山口 純

小出 則行

尾吹 将大

福地 平

廣木 栄則(補)

全日本関東予選女子派遣

石塚 美志

黒澤 智子

梶 直子

柴山 純子

紫村トク子(補)

遠の大会

R1/7/15

男四段以下

優勝 松尾 一郎

準優勝 菊地 凜

第3位 木村 薫

男五段以上

優勝 岩下 智明

準優勝 平戸 信行

第3位 大森 陽平

女四段以下

優勝 小林由紀恵

準優勝 五十嵐ももな

第3位 斎藤 詩乃

女五段以上

優勝 長谷川絵鈴

準優勝 上馬 英子

第3位 萩野谷綾子

派遣選手男子

岩下 智

平戸 信行

派遣選手女子

長谷川絵鈴

上馬 英子

支部対抗

R1/8/24

団体戦

優勝 筑波大学

菊地 凜、水越 優、

準優勝 斎藤 詩乃

水戸 萩原明日香、佐久間香名、

第3位 志田 正実

土浦 雄之、野口 久、

木 瀧口 真央

ねりん

R1/12/2

選手

齊藤 千晴 谷越 敏彦

越川 春江 川端 達夫

矢崎 一男

監督・交代選手

青木 隆 齊藤ミユキ

中野杯

R1/12/8

男子の部

優勝 瀧口 真央

準優勝 松尾 一郎

第3位 平須賀 功

女子の部

優勝 長谷川絵鈴

準優勝 大貫 春恵

第3位 岩田 京子

称号受有者

優勝 中嶋 鉄郎

準優勝 根本 利江

第3位 尾吹 将大

新年射会

R2/1/11

三段以下

男子

射詰優勝 佐久間香名(水戸)

優勝 菊地 凜

準優勝 草野 弘

第3位 磯山 立樹

女子

優勝 江幡 里奈

準優勝 伊藤 遥香

第3位 佐久間香名

四・五段

男子

射詰優勝 大森 陽平(蒼藤会)

優勝 平澤 好美

準優勝 増尾 裕次

第3位 瀧口 真央

女子

優勝 高橋 静

準優勝 横山美津子

第3位 斎藤 詩乃

称号受有者

男子

射詰優勝 萩野谷綾子(射友会)

優勝 小國 英智

準優勝 高野 敬光

第3位 鈴木正太郎

女子

優勝 萩野谷綾子

準優勝 紫村トク子

第3位 黒澤 智子

茨城県教職員弓道連盟県内大会結果

春季大会

R1/4/29

男子の部

優勝 千葉 一茂

準優勝 青柳 優

第3位 根本 栄治

女子の部

優勝 増渕 由美

準優勝 大川都志子

第3位 大金喜代子

総合の部

優勝 千葉 一茂

秋季大会

R1/11/24

男子の部

優勝 千葉 一茂

準優勝 白石 直之

第3位 後藤 裕一

女子の部

優勝 大金喜代子

準優勝 八巻 千夏

第3位 大川都志子

総合の部

優勝 千葉 一茂

高体連県内大会結果

春季大会 兼 関東大会県予選

R1/5/11(女子)

R1/5/12(男子)

男子団体

優勝 土浦第二A

準優勝 石岡第一A

第3位 佐竹A

女子団体

優勝 清真学園A

準優勝 鹿島

第3位 佐和

男子個人

優勝 千葉 大地(石二)

準優勝 本橋 隼人(土二)

第3位 工藤 翔太(守谷)

女子個人

優勝 紙田梨華子(清真)

準優勝 永井 美加(鹿島)

第3位 植嶋 巴菜(佐和)

高校総体予選 県民総体予選 全国総体予選 国体茨城大会

R1/6/15、16、18

男子団体

優勝 清真学園

準優勝 常総学院

第3位 石岡第一

女子団体

優勝 土浦第三

準優勝 石岡第一

第3位 水戸第三

男子個人

優勝 田川 晟梧(清真)

準優勝 青柳賢史朗(常総)

国体選手選考会

R1/6/26

候補選手

男子 千葉 大地(石二)

大和田寛喜(土二)

田川 晟梧(清真)

監督 辻 尚宏(江総)

女子 鈴木 来実(清真)

渡邊 真由(清真)

監督 紙田梨華子(清真)

佐久間和彰(清真)

県個人選手権兼関東個人選手権県予選会

R1/7/29(女子)

R1/7/30(男子)

R1/7/31(決勝)

男子総合

優勝 千葉 大地(石二)

準優勝 根本 志竜(清真)

第3位 佐藤 幸生(石商)

女子総合

優勝 佐藤 千夢(守谷)

準優勝 立原 花希(日北)

第3位 後藤 真里(古三)

男子1年

優勝 根本 志竜(清真)

第3位 飯島 琉(牛栄)

女子個人

優勝 日向寺美羽(清真)

準優勝 保坂 好美(藤代)

第3位 小岸 雪佳(水三)

新人大会兼全国選抜予選

R1/11/11(女子)

R1/11/12(男子)

男子団体

優勝 取手第一

準優勝 下妻第二C

第3位 那珂湊 水城

女子団体

優勝 水戸第二A

準優勝 水戸工業

第3位 水戸第三 石岡商業

男子個人

優勝 久須美光弥(水城)

準優勝 橋本 良也(玉工)

第3位 松本 拓夢(妻二)

女子個人

優勝 坂差井朋佳(水二)

準優勝 近藤 朋佳(藤代)

第3位 片岡 麻衣(海一)

県高校弓道冬季大会

R1/1/23(女子)

R1/1/24(男子)

男子団体

優勝 佐橋 崇朗(清真)

準優勝 國生 空(朝日)

第3位 工藤 拓海(竹来)

優勝 境

準優勝 藤代

第3位 石岡第一

女子団体

優勝 水戸桜ノ牧

準優勝 石岡第一

第3位 鹿島

男子個人

優勝 清水 紫央(那湊)

準優勝 勝山 陽永(佐竹)

第3位 大和田寛喜(土二)

女子個人

優勝 原田 朋佳(石二)

準優勝 井川 綾乃(鹿島)

第3位 小泉 霞(江総)

中体連県内大会結果

R1/7/26

男子団体

優勝 東海南

準優勝 清真学園

第3位 水戸二

女子団体

優勝 水戸二

準優勝 城西

第3位 猿島

男子個人

優勝 佐橋 崇朗(清真)

準優勝 國生 空(朝日)

第3位 工藤 拓海(竹来)

女子個人

優勝 川野邊 集(水戸二)

準優勝 保科 彩花(朝日)

第3位 木村 陽伽(清真)

中野優勝旗大会

R1/8/1

男子団体

優勝 土浦一A

準優勝 東海A

第3位 清真B、水戸二A

女子団体

優勝 水戸二A

準優勝 清真B

第3位 城西A、水戸二C

男子個人

優勝 大沼 知幹(東海)

準優勝 谷畑 智哉(土浦二)

第3位 山内 謙吾(水戸二)

女子個人

優勝 荻沼 咲依(東海南)

準優勝 須田有里菜(茨城)

第3位 川野邊 集(水戸二)

県新人大会

R1/10/28

男子団体

優勝 竹来

準優勝 清真

第3位 東海南

女子団体

優勝 東海南

準優勝 水戸二

第3位 猿島

男子個人

優勝 工藤 拓海(竹来)

準優勝 居林煌太郎(竹来)

第3位 吉田 大也(千波)

女子個人

優勝 松井志緒里(朝日)

準優勝 平野 百依(東海南)

第3位 出野 天花(水戸二)

武道フェスティバル

R1/11/17

男子の部

優勝 居林煌太郎(竹来)

準優勝 本堂 寛士(阿見)

第3位 船戸 凌(千波)

女子の部

優勝 篠原 利果(千波)

準優勝 黒川 怜音(東海南)

第3位 川野邊 集(水戸二)



令和元年度 中央(臨時)審査会 合格者

No	取得	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	教士	黒 澤 智 子	三菱ケミカル	R1. 8.31	【福岡】 定期中央審査会
2		石 塚 美 志	土 浦 亀 城	R1.11. 1	【東京】 定期中央審査会
3		堀 史	土 浦		
4	六段	紫 村 トク子	水 戸	R1. 5.19	【東海地区】 臨時中央審査会
5		根 本 利 江	東 海	R1. 9.15	【関東地区】 臨時中央審査会
6		伊 東 喬	日立市中央	R1.10.13	【東北地区】 臨時中央審査会
7	錬士	荒 木 広 大	土 浦 亀 城	R1. 7.28	【宮城】 特別教員臨時中央審査会
8		新 川 広 毅	神 栖	R1. 9.14	【関東地区】 臨時中央審査会
9		新 川 喜美子	神 栖		
10		岩 野 かおり	土 浦 亀 城	R1.11.16	【関東地区】 錬士臨時中央審査会
11		小 國 英 智	勝 田	R1.11.17	【関東地区】 錬士臨時中央審査会
12		谷 山 豪 祐	土 浦 亀 城		
13		宇留野 純 平	東 海	R1.12.21	【東京】 特別臨時中央審査会
14		渋谷 輝 男	牛 久		
15		宮 田 はるみ	水 戸		
16		市 毛 克 哉	水 戸		

令和元年度 連合審査会 合格者

No	取得	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	五段	福 地 信 昭	射 友 会	R1. 9.16	【栃木】 関東地域連合審査
2		下 津 隆 明	霞 ケ 浦	R1.10.20	【茨城】 関東地域連合審査
3		五 賀 友 継	筑波大学		
4		吉 村 静 華	堀 原		
5		瀧 口 眞 央	土 浦	R1.11.10	【東京】 関東地域連合審査
6		栗 原 希代子	土 浦 亀 城	R2. 2. 9	【東京】 関東地域連合審査
7		木 村 薫	日 立 市		